

Bazaar

Harper's

月刊化!
スペシャル・プライス ¥680

ハーパーズ バザー
2015年3月号
特別定価 ¥680

2015
SPRING
SUMMER
BAGS &
SHOES

春を彩る
最新バッグ &
シューズ

NEW LOOK!
すぐ手に入りたい
今季のクルーズ

REESE
WITHERSPOON

美しくもタフに生きる
リース・ウィザースプーン

MY
LIFE,
MY

STYLE

ファビュラスに自分スタイル

PLUS キャメロン・ディアスの幸せライフ ● 春のメイクアップ ● ディオール in TOKYO



5

フェアの本会場においても、このペリアンや同世代のジャン・ブルヴェ、イタリアのイコ・パリシやブラジルのジョアキム・テンレイロら、ミッドセンチュリー・モダンと呼ばれるシンプルな家具の展示が目についた。1950年代に発表された、パイプやスチールの脚を持つ簡素なテーブルや椅子。ブームとはいわないまでも、歴史的なデザインに対する関心は年々高まっている。

実際、ミラノ拠点の建築家ヴィンチェンツォ・デ・コティースが織り成すリサイクル素材による家具やオブジェにも、イタリアの戦後美術「アルテポヴェラ」の精神に重なるものがあるようだ。使い古された真鍮にガラスや木材を組み合わせたテーブル、ベニーニ・ガラスの製法を取り入れたアンティーク風吊りランプなど、異質な素材が斬新に、かつノスタルジックに溶け合っている。初登場の中東レバノンのギャラリーが個展形式で紹介したもので、作品はどれもデ・コティースが旅したベイルートの街並みに触発されたものだという。

その一方で、シャルトル大聖堂やタージ・マハルなど、世界の歴史建築をかたどった豪華絢爛なバロック彫刻（中身は時計やランプ）を発表したスタジオ・ヨブ、チベットに伝わる織物をベースに、

5. デザインマイアミ初回の会場だったデザイン地区にあるムーアビルを飾る、ザハ・ハジドの「エラストイカ」(2005)。
6. 建築家ヴィンチェンツォ・デ・コティースによる家具デザイン。カルヴァ・ギャラリーの展示から。
7. 第1回デザイン・ビジョナリー賞に輝いたピーター・マリノ。鏡の中で増殖する等身大の蟻人形が大人気。
8. フェンディのスペースを手がけたディモーレスタジオのフリット・モラン(手前)とエミリアーノ・サルチ。作品もファッションセンスもクール。



6

壮大なタピスリーや黄金の足を持つ黒い羊のオブジェで人気を集めたザ・ハース・ブラザーズら、現代アートと見紛うような大胆かつ機能性を欠いたデザインを見るのも、フェアならではの面白さだ。

この点で、今回特に目立ったのが、ブランド企業と新進デザイナーとの数々のコラボレーションである。シカゴ拠点の女性建築家ジーン・ギャングが手がけたスワロフスキーの氷の部屋、ウィーン拠点のデザイナーデュオ、ミシェル・トラクスラーがペリエ ジュエのためにデザインしたインタラクティブ・エコアート、そして、建築界デザイン界を問わず今最も注目のデュオ、ディモーレスタジオがお披露目した、フェンディの「ローマンラウンジ」。

このラウンジは、入り口のあるほかのブースと異なって、正面開放型。グリッ



7

ド状の書棚や天井から吊るされた棒状のランプ、壁面を水平に横切るスクリーンなど、ジオメトリックな空間に、フェンディカラーともいべき黄色の光が満ち溢れ、まるで一幅の絵のように観客の目を奪う。内部には椅子やテーブル、デイベッドが配置され、対話やくつろぎを促す空間ともなっている。

とはいえ、スクリーンや椅子に使用された上質のレザー、デイベッドを包み込む刈り毛のミンクなど、フェンディの創業以来伝わる高級素材と卓越した技術によって実現されたスペースは、表現はミニマルでも超リユクス。近づきたいその高貴さにこそ、ファッション、デザイン、建築とあらゆる分野で革新を試みるフェンディの自信溢れるステートメントが表れているようだ。

フェア10周年を記念する極めつきの展示といえば、ピーター・マリノの黒のパビリオンだろう。新設の「デザイン・ビジョナリー」賞に輝いたマリノは、フェンディをはじめ、数多のブランドブティックの内装で知られ、ルネサンスのブロンズ彫刻から現代美術まで、アートコレクターとしても有名だ。パビリオンに並ぶのは自作のブロンズ家具や、自慢の椅子のコレクション。作り、集める情熱にあふれ、まさにフェアの未来と重なっていた。 ■

